

失敗を許さない世の中について

今の日本は失敗を絶対に許さない狭苦しい世の中であり、うつ病・自殺の増加にもつながっている。そこで、これに関して日本の現状をみて、考察してみた。

【1】概要

今の日本は失敗を絶対に許さない世の中になっている。何かを失敗すると、謝罪や責任をとることを要求することはもちろん、罵声を浴びせられたり、掲示板に意味のない誹謗中傷の書き込みをされたりするなど、失敗した人に対して激しく批判する。失敗した人が有名人の場合、謝罪会見にマスコミが押しかけて、その質問の場で意地悪な質問をし、今後の活動に支障が出ることもある。一方有名人ではない場合、失敗に対して叱責するとき、嫌味や追い討ちをかけるようなことを言ったり、過剰な責任をとらしたりするなど、いじめみたいなことを行ない、失敗した人を徹底的に潰しにいき、再起不能まで陥れようとしている。

意味もない無差別殺人などは決して許されるものではない(失敗というより意図的なものではあるが)。しかし一方でケアレスミスや、多少迷惑はかけたが人を傷つけない程度の意図しないもの(病気になることや酒に酔ってちょっとしたことをやってしまうなど)等の許してもよい失敗まで強く批判されてしまうのが現状である。ちょっとした失敗であるなら、誰もがすることなので、次から気をつければよいと思う。失敗を強く批判し、許さないものになっている今、かなり狭苦しい世の中であるといわざるを得ない。そこで、失敗をすることが許せない世の中になったことについて考察してみることにした。まず、失敗した人に対する対応について、いくつかの事例を用いて、日本の現状を詳しくみてみた。そして、それらのことに関して考察するとともに、私なりの見解をまとめてみた。

【2】日本の現状について

ここでは、失敗した人に対する対応について、いくつかの具体例を挙げ、日本の現状を詳しくみてみる。

つい最近、有名人でちょっとした不祥事を起した人は草なぎ剛である。草なぎ剛は酒に酔って、公園で裸になってしまい、近所の人が警察に通報した。そして、警察は草なぎ剛の身柄を確保した。ここまでは、酔っ払った人に対する措置としては一般的なものであった。しかしこの後、警察は草なぎ剛公然わいせつ罪として逮捕した。草なぎ剛は確かに全裸で少し暴れたが、逮捕は少しやり過ぎではなかろうか。さらに、警察は薬物所持の疑いで、家宅捜索まで行なった。家宅捜索を行なう場合、憲法 35 条により、捜索令状が必要であるはずである。実際に、それを草なぎ剛に示したのだろうか。万が一示していない場合は違憲になる。そして、捜索令状を発行できる者は裁判官だけである。全裸で少し暴れた要因が酒で酔っ払ったからであると明確であるにもかかわらず、薬物所持の証拠収集の調査を行なったなら、この裁判官はおそらく個人的に草なぎ剛が嫌いで、世間の評価を下げようとするもくろみがあったかもしれない。しかし、この場合は権利の濫用になる。結局、薬物は見つからず、SMAPは一切薬物には無縁であることは証明されることになった。マスコミはこの事件に関して、ニュース速報で取り扱い、世間を大騒ぎにさせた。いくら有名人であるからといって、煽りすぎであり、面白おかしくやっているようにもみえた。さらに謝罪会見において、マスコミが押しかけて、その質問の場で答えづらい質問をした。ただ、草なぎ剛は謝罪会見を一生懸命がんばったため、このような謝罪会見で世間の評価を上げることは難しいことであつたが、かえって世間の評価を高くした。さらに、鳩山邦夫総務相は草なぎ剛に「最低な人間だ」と発言した。日本の政治で重要な地位についている人がこのような発言をすることは、軽率であり、これこそ人として恥ずかしいことである。中川氏の不祥事の方が余程問題があり、一步まちがえればバチカン市国と国境断絶になりかね

ないことであった。まず、人を攻める前に自分たちの行なったことを反省するべきである。

みなさまは時々ではあるが、仕事を失敗することがあるだろう。そのとき、会社の上司や取引先の会社は厳しく批判する傾向が強い。会社の上司は、怒鳴るように気に食わないことを言い、単なる注意だけではなく、傷つけるようなことも行なう。そして、そのとき周りの社員も「お前が悪い」などと言って、みんなで失敗を責める。本来ならフォローをして、次は失敗しないように対策をとるべきではあるが、失敗したらもう終わり、絶対に許すなという雰囲気になっている。取引先の会社は、失敗した人に対して、出入り禁止などの過剰な責任をとるように求めてくることがある。もしこれを拒む場合は、取引停止にさせられてしまう。仮に精神誠意で謝罪しても、何らかの責任をとらないと許さない傾向がある。それから、取引先の会社も単なるクレームではなく、嫌味などの傷つけるようなことを言うてくる。もしかしたら、みなさまも失敗したときは、このような処遇を受けている人がいるかもしれない。失敗した本人が一番つらいのに、追い討ちをかけられて、もう仕事はやりたくない人もあると思う。一番電車・バスの運行などは、ダイヤの乱れが絶対に許されず、正確に行なわれなければならないかもしれないが、ミスをして大きな迷惑をかけないものも失敗すると、厳しく注意されるのが現状である。

豚インフルエンザ感染が、5月の中頃から拡大し始めた。日本においては、他の国に比べて、過剰に大騒ぎしていて、感染した人を犯罪者扱いにしている。特に首都圏で初めて豚インフルエンザの感染者が確認された洗足学園高校に対して、非難が寄せられた。当初、感染した生徒はアメリカから帰国後、登校していなくて、学校で感染が広がる可能性が低いことから、休校にはしない方針であった。しかし、非難が寄せられたことによって、世論に対して配慮せざるを得なくなり、校長は悩みぬいたうえで、休校を決定した。さらに市民から、「うちの子供も感染した同じ路線を使用している。もし感染していたらどうするんだ。」などの非難の電話がかかってきた。また、インターネットの掲示板で「洗足生はバカだ」と意味もない誹謗中傷の書き込みがあった。結局、校長は「社会的責任を痛感している」と頭を下げるはめになり、謝罪会見みたいなものになってしまった。感染した生徒は、ニューヨークで開催された模擬国連大会に行っていたが、この体験はなかなかできるものではなく、それに参加したことを責めることはできない。感染した生徒は帰国時に具合が悪く、自ら申し出て検疫を受けていた。そして、検疫の結果は陰性であったが、念のためにマスクを着用して帰宅し、感染拡大を防ぐ措置はとっていた。それらのことから、感染した人を責めることはおかしなことであり、マスコミや政府はこのことに関して煽き過ぎである。感染が拡大している大阪では、感染した学校の職員がタクシーを利用しようとしたが、乗車を拒否されたり、病院の診察をキャンセルされたりすることもあった。今、豚インフルエンザに感染した人やその周囲の人は、社会からどのようにみられるか、不安が消えないのが現状である。日本は病気になることも許されない国になってしまったのか…

【3】思ったこと

ここまでいくつかの事例を挙げてきた、失敗した人に対する対応に関する日本の現状について、思ったことをまとめてみた。

今の日本は失敗を許さず、さらにその人に対して追い討ちをかけ、陥れようとする風潮がある。周囲の人も「お前が悪い」などと言って、みんなで失敗を責める。本来ならフォローをして、次は失敗しないように対策をとるべきではある。しかし、あまりにも失敗を責められると、失敗した本人は、次は失敗を絶対にしないようにとプレッシャーがかかり、反って再び失敗をしてしまう。さらに失敗を恐れて、何か新しいことにチャレンジすることもできなくなる。このように悪循環にはまり、最終的には生きる気力を失い、精神病になったり、自殺に追い込まれたりすることもある。マスコミも誰かが何らかの問題を起すと、それに関して過剰に扇ぐ。特に豚インフルエンザに感染した人は、マスコミが煽った影響で、世間の目を気にしながら行動をしなくなったり、行動が制約されてしまう。また、たくさんのマスコミが押しかけるため、それに対応しなければならず、対応す

る人はさらに精神的負荷がかかる。このことから、マスコミは失敗した人に対して、ある程度配慮すべきである。決して、失敗をおもしろおかしく報道してはならない。さらに今、警察などの公権力が、失敗した人に追い討ちをかけて徹底的に潰しにいき、再起不能まで陥れようとする動きがある。草なぎ剛の件のように、気に入らないから、陥れるために自宅捜索を行なっているようであれば、公権力に人権が侵害され、民主主義が損なわれる可能性がある。このようにみんなで失敗を徹底的に叩くのではなく、失敗は誰でもするものであるため、ある程度寛容になるべきである。そして、失敗を責めるよりは、また失敗しないように対策を練ることの方が重要である。特にまじめな人であるならば、失敗した本人が反省していて、同じような失敗は繰り返さないように考えるので、追い討ちをかけて再起不能まで陥れることは辞めるべきである。

今の失敗を叩く風潮の背景には、日本社会の問題になっている、行き過ぎた成果主義やストレスなどがある。これらは資本主義によってもたらされた企業社会の弊害である。成果主義は自分の成績を良くするため、他人に対して、妨害をして陥れる。特に失敗した人を陥れれば、今後その人は成績を上げることが困難になり、自分が成果を出すことが有利になる。一方、人間関係が悪化し、精神的なストレスにもつながっている。また資本主義の下では、労働者は嫌でも、企業組織として存する職場の中での決められた地位に基づく役割を与えられた労働条件の中で遂行しなければならず、それによりストレスが蓄積される。会社で決められた地位は絶対的なものであり、上司が『無駄に怒鳴りつけた』、『嫌な仕事を押し付けてきた』といったパワハラもあるため、上司との関係が精神的ストレスの要因になっている。それらのことにより、資本主義は日本人を精神的に荒廃させ、道徳観・正義感が失われた。またストレスが国民に蔓延していることから、ストレスを発散させるために失敗した人を馬鹿にする人が多くなってしまっている。これらのことから、失敗を叩く雰囲気の良い風潮から脱却するためには、日本社会を変えるしかないと思う。もっとも、このままこの状態が続けば、日本が崩壊する可能性がある。